

令和4年度 第3回石狩市厚田区地域協議会 会議録

【日 時】 令和4年6月30日（木） 18:00～19:05

【場 所】 厚田総合センター2階 ホール

【出席者】 13人（15人中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	渡邊 教円	○	委員	加藤 亞弓		委員	角野 亮太	○
副会長	東 幸子	○	委員	鎌田 憲一	○	委員	平賀 敏和	○
委員	石田 靖子	○	委員	小山 玲子	○	委員	村本 龍一	○
委員	大内 さつき	○	委員	今 光江	○	委員	森田 瞳	○
委員	岡山 拓	○	委員	笹谷 清一	○	委員	八木沼 英晃	

※会長・副会長を除き、あいうえお順

企画経済部企画課 ～ 宇野課長、芳賀主査

厚田支所 ～ 東支所長、吉田市民福祉課長（併 厚田生涯学習課長）

地域おこし協力隊 ～ 飯塚隊員、奥本隊員

集落支援員 ～ 八木沼支援員

事務局（地域振興課）～ 高田課長、永塚主幹、寺尾主査、渡部主査

【傍聴者】 2名

【次第】 1. 開会

2. 会長挨拶

3. 情報交換会（リラックスタイム）

4. 協議事項

（1）第9期厚田区地域協議会の運営について（継続協議8回目）

5. 報告事項

6. その他

7. 閉会

1. 開会

開会前に事務局（高田地域振興課長）より、加藤委員、八木沼委員の2名の欠席報告と、併せて渡邊会長より本日の協議会へ厚田区地域おこし協力隊員及び厚田区集落支援員の参加を求め参加していることを報告し、令和4年度第3回厚田区地域協議会を開会した。

2. 会長挨拶

渡邊会長より、委員の皆様へ本日参加いただいたお礼と、協議事項の中で忌憚のないご意見をお願いし挨拶に変えた。

3. 情報交換会（リラックスタイム）

岡山委員より、厚田学園の取り組みについて、笹谷委員よりコラボレーションピザの販売についての情報提供をそれぞれ行った。

4. 協議事項

(1) 第9期厚田区地域協議会の運営について（継続協議8回目）

【 渡邊会長 】

それでは、前回の協議事項の部分で多少整理ができたと思うのですが、移住と定住、それから情報発信については、協力隊の飯塚隊員と奥本隊員が進めていくということで、我々も応援しながら力になりながら、進めていきたいと思っております。

今回からは、近説遠来の近説の部分について、協議をさせていただきたいと思っております。この近説遠来というのは、10年前の第4期地域協議会から出てきた言葉ですが、その当時居たのは私だけだと思いますので、まだまだ皆さんには、馴染みがない部分もあろうかと思っております。合併から17年が経ちまして、人口も大きく減少しており、2,763人から現在は1,652人と、1000人以上も減っております。しかしながら、厚田複合施設建設構想から拠点となる道の駅が出来たり、小中一貫校の厚田学園が出来たりと、また、外部人材の活用というところで、地域おこし協力隊員がこれまで9名が活動しております。また、この春からは集落支援員が導入され、厚田区が目指す近説遠来の実現に向けて、委員の皆さんや地域の方々がこれまでいろいろと関わり取り組んできたところであります。

近説遠来とは「近くの人が喜び、遠くからおのずと人が来る」、すなわち、我々住んでいる人たちが、喜んで幸せに暮らしていると、区外から多くの方が訪れるということでもあります。これからはこの近説の部分、住んでいる私たちにフォーカスして協議を進めていきたいと思っております。まずは事務局から、これまでの経緯経過について、よろしく願いいたします。

【 事務局（高田課長） 】

それでは私から、地域協議会の議論を経て、地域活性化を目指す厚田区のこれまでの動きについて、ご説明をさせていただきます。お手元の資料1を見て下さい。この資料1の左側の①番から⑧番ですが、合併から現在に至るまでのこれまでの動きを順番にまとめております。

最初に①番を見ていただきたいのですが、平成17年10月の合併と同時に、旧厚田村は地域自治区の厚田区となりまして、地域協議会、そして支所が設置をされ、補完性の原則による住民自治の推進、それから協働の取り組みを掲げ、特色あるまちづくり・地域づくりを目指し、新たなスタートを切ったところです。しかし、合併当初は、何をどう進めていいのか試行錯誤を繰り返しながら、時間とともに徐々に地域から地域課題の解決や活性化に向けた住民自らの想いが、地域協議会へ提案されまして、地域の人たちが主体となって組織を立ち上げ、平成23年度までに、市民と行政との協働による7つの地域振興団体が誕生し、これまで取り組みが進められてきました。委員の皆様の中にも地域振興団体の一員として、今も活躍されている方もおりますが、当時地域には、自ら中心となって、地域を引っ張るト

リガー的な人材もたくさんおりました。

②番に移りますが、平成24年度からは、内部のみならず外部の視点を取り込もうと、地域おこし協力隊制度の活用についての検討を始め、平成26年度に外部の視点を生かした更なる地域活性化を目指し、この制度の活用を決めました。ご承知のとおり2名の現役隊員を含め、これまで9名の地域おこし協力隊員を導入してきており、卒業後、約半数については、市内での起業並びに定住定着に至っているところです。

③番ですが、平成23年の10月からの第4期の地域協議会では、「厚田の魅力は」というテーマで、「今、現に魅力と感じていること」「将来に向けて魅力となるもの」などについて、ワークショップ形式で意見を出し合い、厚田の魅力を六つの島にまとめて、賑わい、活気あるまちづくりのイメージを作り上げ、平成25年第4期地域協議会で、厚田区が目指す将来の姿を「近説遠来」という形で定めたところです。

その最初の取り組みとして、④番になりますが、平成25年11月に資料室を兼ね備えた複合的な施設を創ろうと地域から声が上がリ、複合施設建設構想策定委員会が設置され、約1年半の議論の末に新たな資料室を兼ね備えた施設として、平成30年4月に道の駅が誕生し、今では年間40万前後の客が訪れて、石狩市の観光拠点の核となる施設として、今後さらなる飛躍が期待されているところです。

⑤番ですが、平成29年に近説の実感・具現化に向け、住民同士が支え合っているいつまでも住みなれた厚田の地で生活ができる「カンパニー構想」を打ち出し、共助のまちの実現を目指すことが示されました。

⑥番になりますが、平成29年11月には、地域一人一人の想いを地域づくりに反映させるため、アンケート会議を設置し、区民アンケート調査を実施しまして、地域課題を再確認するとともに、地域では少なからず支え合いのまちが望まれている事を確認したところです。

この調査から⑦番ですが、「日常生活の不便さの解消」「安心の医療、福祉」「子育て環境の充実」「移住、定住」の四つが課題と整理され、この四つに共通する社会基盤が「地域交通の充実」であるとアンケート会議から提言を受け、地域交通サービス検討委員会の設置に至り、利便性向上に向けた議論が現在も進められているところです。

⑧番に戻りますが、黄色に塗り潰されたところですか、地域では、「意見する人」「支援する人」「アイデアを出す人」は大勢いるのですが、自らが中心となって地域を引っ張っていく「トリガー的な人材」がおらず、今後の鍵は牽引する人材であるとの提言も受け、⑧番になりますが、集落支援員制度検討委員会を設置し、その牽引役として4月から集落支援員を導入し、現在に至っております。

今後は集落支援員を中心に、地域住民と共に、支え合う⑧番の取り組みを実施・検証しながら、その仕組みを構築していく動きとなります。

以上、地域の想いを形に、地域振興の活性化に向けた方向を地域協議会の中で確認をいただきながら、一步一步進んできたこれまでの経過について、ご説明をさせていただきました。私からは以上です。

【 渡邊会長 】

ありがとうございました。もう合併してから17年も経ってたのだなと思いましたが、厚田区が目指す将来の姿「近説遠来」の実現に向け、これまで取り組んできたのだなと改めて実感しています。とにかく、この近説遠来の実現に向けて、一歩ずつ近づいていかなければいけないなと思っており、今回の協議事項は「近説」について、住んでいる人が楽しく喜んで暮らすことができる、支え合うまちのカンパニー構想の具現化を進めて行きたいと思います。

そこで今日は皆さんから、これまで厚田で暮らしていて、楽しかったこととか、昔はこういうことがあって良かったとか、何かそういう思い出とか、こうなったらいいとか、そういう部分について、皆さんからお聞きしたいなと思います。今、八木沼支援員がみよし園で畑を一生懸命やってくれてますが、厚田村時代の話になりますが、厚田みよし園でも盆踊り大会をやってまして、その頃はお年寄りも元気な方たちがたくさんいましたので。しかも仮装盆踊りやっていたり、中学校の子供たちにもいろいろ手伝ってもらったり、役所の方たちにもやきとりを焼いたり、ビール係をさせていただいたり、今はやっていないけど、昔はこんな事があって楽しかったなど、お話いただければと思います。

では、副会長からお願いします。

【 東副会長 】

私は在住8年目なのですが、私が楽しいなと思うのは、冬のウインターレクですが一回しか行ってないのですが、厚田にスキー場があった頃を知らないのですが、スノーモービルで乗せてもらって登って、私はすごいスノーボードが好きなので、スノーボードを楽しませてもらって、何かああいうのを今年とか今後も出来るようになればいいなって思います。

【 岡山委員 】

まだ住んで3ヶ月ですが、子どもの頃6年間住んでました。スキー場は現役で滑っておいりましたので、大会の前日にはこけないだろうかと、ドキドキしてました。当時は、厚田を本村って言ってましたが、本村の子たちと競い合う機会があり、剣道の試合とか、野球の試合もしました。厚田中学校が強くて、なかなか勝てないのですが、一回だけ勝って、管内の中体連に聚富が行けたりする年もあったりして、そんなことを本当に懐かしく思います。

最近の3ヶ月でいいますと、家の周りの草がちょっと伸びてきたので、何も道具を持ってなかったんで、手でむしってましたら、それを見るに見かねたのか裏のご住職が、草刈機でばあっとやってくれました。とってもありがたかったです。

【 森田委員 】

厚田に住んで8年目になるのですが、まだまだ皆様よりも全然、歴史は浅いですけど、毎日楽しく穏やかに過ごせるところだなというふうに日々思っています。校長先生もおっしゃったように、何か困ってることがあったりとかしたら、助けてくれる方もいっぱいいらっしゃるし、助けることもあったり、そういう関係性を築けたのが凄いい良かったと思います。

【 鎌田委員 】

昔を振り返ると愚痴ばかりになってしまうので、大変申し訳ないのですが、わたしの町内会は神明町なのですが、現在は27~28戸しかいないのですが、以前は40~50戸あって、子供たちもたくさんいたので、子ども会もあって、いろいろな活動も出来たのですが、今は残念ながら子供は、一軒で3人しかいません。何をやるにしても人が集まらないというか、面白くないのです。何とかそういう活気を取り戻せるようなことが出来れば、素晴らしいなと思っています。愚痴で申し訳ありません、頑張ります。

【 小山委員 】

それでは私が楽しいことを何点か。私も嫁に来てからなので41年になります。スキー場は、子供たちが習いたての頃、冬休みは毎日子供を連れて行きました。実はたくさんお店屋さんがあった頃は、商工会の運動会がありました。今は考えられないと思いますが、鎌田委員も言ってましたけど、子供たちがいっぱいいたので、町内でキャンプをやったこともありました。夜雨が降ってきて自宅に帰ったことなど、そういう思い出もあります。

最近ちょっと感じることは、お年寄りの一人暮らしが多いので、話し相手がいらっしやらないので、外で日向ぼっこしているので、通りかかった時には、普段の何気ない話なのですが、そういう話をちょっと長くなっちゃうのですが、お声を掛けて話をするように努めています。お年寄りは、ここにずっと住んでいきたいのじゃないかなって感じております。

【 村本委員 】

子供の頃から厚田にいるのもう30年以上になりますが、昔はイベント事がやっぱり多かった。お祭りの時に、ちびっこ広場で相撲大会や、地域でキャンプ、冬はスキー大会、プールもあったので遊ぶ場所がいっぱいあったのですが、今はコロナの影響もあるのかもしれないけど、ほとんどやってない状態だし、スキー場も無くなり、プールも無くなり、イベント事もやっぱりしょうがないですけど少なくなっているんで、ちょっと悲しいです。やっぱり、人が増えて、そういうイベント事が増えて楽しい厚田に戻れるようにっていうのを期待しています。

【角野委員】

僕はここに来て、6年目になります。厚田に来ての思い出というか、小さい子二人連れて6年前に就農し、もう本当にずっとがむしゃらでやってきたので、ほとんど家からも、ずっと出れない状態でしたし、もうどこにも子供たちを連れていくこともできなかったのですが、それでも子供たちと一緒に、山に行き、蜂蜜を作っている、その作業場が山の方にあるので、子供たちと毎回一緒に行き、蜂のことを勉強しながら、子供たちに教えながら作業したりとか、海に行き、化石拾ったりとか、とても今思い返すとすごい大変だったのですが、すごい楽しかったなと思います。4月24日に第五子が無事生まれましたけど、家はもう動物園みたいです。取り敢えずまだ2ヶ月なので、首が座る3ヶ月頃まではもう守るのが必死です。これからもっと楽しい思い出を作っていこうと思っています。

【奥本隊員】

ちょうど今日で厚田生活、丸1年が経ちました。まず1年経って思っていることは、引っ越してきて良かったと思っています。今、35度以上の猛暑日が続いている東京からこちらに来ると、凄く涼しいし、生活しやすいなというのはあります。もう少しのんびりできるかなと思って、のんびりしたくて来たのですが、2月に長女が第2子を出産するために、今家に2月の末から来てまして、4月5日に生まれたのですが、1歳10ヶ月の長男とその今3ヶ月の次男と孫が二人いまして、非常に賑やかで、もう少しのんびり過ごしたかったと思いつつ暮らしています。ただ良いのは、赤ちゃんとか子どもが泣いても隣近所がないっていうか離れているので、神経質にならずに、東京のアパートだと壁一枚で、隣からの蹴飛ばされるのじゃないかなっていうそういう恐れ心配することもないので、子供にとってはいい環境なのかなっていうふうに思っています。特に上の子は、2月末に来た時はまだ雪もあって、全然外へ出たがらなかったのですが、今はどンドン外へ行きたがって、長男にとっても良い思い出になってくれたらいいなと思いつつ今、過ごしています。

【八木沼支援員】

厚田で育ってますが、札幌に一時期出ていた時期もありますが、おそらく30年ぐらい住んでいます。特に覚えているのが、私が小中学生ぐらいの時だったと思うのですが、厚田の村民運動会みたいなのがあって、ちょっと名前が定かではないのですが、厚田の体協かゆめ倶楽部の前身だったと思います。地区ごとの対抗リレーみたいなことをしたり、今の厚田学園のグラウンドで、当時は厚田中学校だったグラウンドに、村民がみんな集まった行事がありました。そこで、あの人はあそこの地区だとか、どこに住んでるかとかわかったり、知らなかった人がそこで知り合いなれたり、村民の大運動会があった事をすごく覚えていて、しかもその運動会の後は、スキー場の芝生に移動してみんなで焼肉食べるといって、とても楽しい思い出を覚えています。今はやっぱり人が減ってしまっているんで、イベント事がどンドン減ってしまっていて出来なくなってしまったことも多いのですが、形を多少変えながらも、そういう何かみんなの楽しみになれるようなイベントなどがまたあれば、地域の住んでる人たちが楽しめるのかなと思っています。

【石田委員】

私も厚田に生まれて、ずっと住んでいるんですけど、海も山もあり凄くいい環境にいるのに、泳げないし、スキーも出来なくて、やっぱり厚田の人はみんなスキーが上手なのですが、小学生の時にスキーで骨折した子を目の前で見ちゃって、そこからもう出来ないっていう感じでなってしまった。やっぱり、親が出来ないと子供もスキー場とかに連れて行かないので、滑れないから可哀そうかなと思ったけど、子供は学校で習って滑れてて、スノーフェスティバルに本人出たいというので一緒に行き見て、一生懸命やればよかったなと、何か一つ趣味を減らしてしまってたなと、今でも思っています。

今、虹が原に住んでいるのですが、お祭りはコロナで中止となっていますが、ラジオ体操は毎年やっていて、私がその担当してるので、小学生が10人足らずなのですが、宝寿会がお年寄りの方を呼んでいただいて、全体30人ぐらいでラジオ体操をしています。最後の日には景品を渡すのですが、お祭りではないけど、お祭りのように何か盛り上げたいなって思いつつ、企画を練っています。ちょっと遠いのですが、笹谷委員の娘さんも自転車に来てくれます。

【大内委員】

私もずっと厚田育ちで、仕事もずっと厚田ですが、働いていた時はあまりいろんな行事にも関わってなかったのですが、ある時からか、何にでも関わるようになっていて、頼まれれば、私も断らずにいろんな事をやっています、今に至ってます。今、ようやく今年から、厚田こだわり隊も道の駅で売ったり、石狩灯台でのイベントに参加したり、これからライジングとかあるので今は、それをちょっと楽しみにしています。

【平賀委員】

私の楽しい思い出ですが、ちょうど私がここに来たのが、発足小学校が閉校したその年の11月でしたので、賑やかな発足を知らない人間です。それを境にだんだん発足も衰退し、5軒ほど減ってるのですが、もう一人で住めないと、しゅしゅ発足を離れてしまったという方もいます。昔の発足のように賑やかになればいいなと思いながら日々過ごしています。

【今委員】

久々にちょっと出席して、緊張しているのですが、皆さんの話を聞いて昔のことを思い出しながら、古潭の小中学校の時の頃を思い出してたのですが、小さい時、百人一首の大会とか、書き初めなどみんなが集まる機会があったな思ってます。イベントですが、自分の仕事絡みでお祭りをやったりしていたので、遠くから来た人の喜んだ顔とか、笑ってる顔とかそういうのを見ていると、やっぱり楽しく笑い合える場があったらいいなと思います。

【笹谷委員】

私は、今49歳で厚田には30歳の時に来て、19年目になります。楽しかったことと言いますか、毎年やってることになるのですが、山菜採りです。山菜採りで最初に30歳で友達もいなく、一人で山に入ってびっくりしたのが、桂沢の奥から厚田に抜ける林道が、全部舗装だったことです。何のために舗装してあるのかよくわからないけど、何かに活用出来ないかなと、今こういう話をして厚田の活性化になる武器にならないかなと思っています。山菜取りですが、私は苦小牧時代からもやっていて、ここにしか取れない山菜があるのですが、「ヤチブキ」と言って黄色い花を咲かせる山菜なのですが、苦小牧の方ではとれなくて、他で採れるところもあるのですが、そういうのを取りに、わざわざ苦小牧の友達が来たりとか、逆にここで採れないけど、苦小牧の方だと採れる山菜もあって、それを私が採りに行ったりと交流をずっとして、そういう春の楽しみ方をしてます。あとは、毎年ですけど、苦小牧の昔の仲間が、絶対キャンプしに来ます。やっぱり気候もいいし、海も程近いし、そのために毎年来てくれる友人もたくさんいます。だから厚田には楽しいことは、結構あると思います。厚田ふるさとあきあじ祭りにも毎年来てくれる友人もいます。苦小牧からだと大変ですが、厚田に来てくれます。厚田には魅力はあるので、それをどうにか来るだけじゃなく、その近説遠来に繋げられるような形になればいいなと思います。

【渡邊会長】

委員の皆様、ありがとうございます。本当にさまざまなご意見をいただいて、ちょっと寂しくなるようなご意見も若干ございましたけども、昔は出来たのに今は出来ないことっていうのがたくさんありますよね。ですが、今何とかすれば、出来る事もひょっとしたらあるのじゃないかなという部分もありますし、今の地域資源を使いながらとか、復活させることも出来るのじゃないかなと、皆さんの意見を聞いて思いました。

それでは先ほど事務局のほうからも説明がちょっとありましたが、4月より導入いたしました集落支援員を中心に支え合うまちの取り組みを、今、実施して行こうとしているところであります。まさに近説の部分だと思います。カンパニー構想の具現化を進めるにあたって地域に入って活動し、そして今回、皆さんのお手元にあるかと思いますが、八木沼支援員から「あつクラのやぎゆき頼り」について、ご説明をお願いします。

【八木沼支援員】

お手元に「あつクラのやぎゆき便り」、黒い筆ペンで書いてますが、手書きのものがあるかと思いますが、そちら

をご覧ください。実は、地域協議会の皆様にはここの四角の枠の中にある Vol.1 については、お配りしていたのですが、地域の方に全員にお配りしていたかという、実は私がお会いしてお話をさせていただいた方にしか、お渡ししていませんでしたので、Vol.2 に Vol.1 を入れ込んで、改めて地域の皆様に回覧という形でお便りを作らせていただきました。皆さんには1度目にさせていただいているかと思いますが、Vol.1 の中に、今私が何を思っているかという部分を詰めたつもりでいます。改めてこれを皆さんに見ていただいた上で、ちょっと裏面を見ていただきたいと思いますが、主に三つのネック、「交通」ですとか、「子育て」とか「生活環境」のこと、困っていることが色々あるのがわかってるけど、「じゃ、どうしたらいいの」っていうところを私なりにちょっと整理をして書いたのが裏面になります。車で買い物とか病院に連れて行って欲しいとか、何かこういうところを自分では出来ないからやって欲しいなど、困っていることがあるけど、ではそれを誰がやるのか、人手とか人材が圧倒的に不足している現状があるのではと思っています。今厚田にいる人たちだけでカバーし切れない部分については、誰かに助けに来てもらう、厚田に来てもらう人たちがやっぱり多少なり必要なのではと思っています。だけど、「じゃあどうやったら人に来てもらえるか」というところは、来たいと思ってもらえる厚田に、今以上に厚田の魅力をレベルアップしたら、人が来てもらいやすくなるのかなと思っています。まずその為に、厚田に住んでる私たちが楽しんで暮らす、ここが先ほどから言っている近説遠来の近説の部分に繋がるのかなと思っています。矢印をどんどん進めて行くと、楽しんで私たちが暮らすためには、今いる厚田の住んでいる人同士がお互いにもっと知り合い、今もしているかと思うのですが、もっともっと助け合いをして、暮らしやすくしていくことが必要じゃないかなと思っています。そうやって人と人が知り合うためには、まず会わないと知り合いにはなりませんし、会って直接顔合わせしてお話をさせていただきたいと思っています。そんなふうみんながこう気軽に集まって、顔を合わせたり出来る場所を作りたいなとちょっと思っています。そこに来て誰かと話をする中で、「こんなことをやってみよう」とか、「ここの人こういうことに困ってる」とか、「じゃこの人を助けよう」とかそんな流れになるような、そういう場所があるといいなと思っていて、それをぜひ皆さんと一緒に作りたいということはこの便りで伝えたいと思っています。今ちょっとこの流れの中で、説明していないのですが、厚田をレベルアップするための+（プラス）って書いているところなのですが、前回、奥本隊員から住む家や働く場所が無いと、人は来てくれないという話がありましたが、もちろんそれも忘れてはならないポイントだと思っていて、人に来てもらうためには、仕事とか、住む場所とか、必要になってくる部分もあると思うので、そこはそこで整備なり受入のフォローなどがあるといいなと思っているので、書いてあります。話を戻しますが、もしそういうみんなが集まれる場所があったとして、「その場所であなただけが何をしたいですか」という部分を今回、アンケート形式にしまして、全戸配布させていただいております。一番下のQRコードを二つ付けていますが、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムと、あと公式といいますかやぎユキLine もあり、私に直接ラインで繋がるものも作ってみました。どれだけの方がLine を出来るかわかりませんが、この紙を持って私のところに来ていただいても、もしくは、Line で気軽に連絡いただけたらなと思っており、窓口をいくつか設けています。私からは以上です。

【 渡邊会長 】

ありがとうございます。集まる場所があったら何がしたいか、どんなことがしたいかっていうことで、皆さんの意見では、ウインターレクだったり、助け合いの話だったり、話し相手や商工会の運動会であったり、子供たちと遊ぶとか、大運動会とかラジオ体操とか、何か共通として人が集まることですね。やっぱり集まって話し相手がいて一緒に何か出来て、おいしいもの食べてるのが、本当に皆さんの意見を聞いて、確かにそうだよなというふうに感じました。

八木沼支援員の話で合った「その場所であなただけが何をしたいですか」ということですので、皆さんの率直な意見を、ぜひ、お願いしたいと思います。このアンケートでは全戸配布していますが、今日、終わりましたら書いていただけたらと少なからず、本日出席した皆さんのアンケートが揃うわけですので、よろしく願います。

八木沼支援員については、ますます地域のために頑張ってくださいと思いますので、我々もぜひ、何かあれば、応援したいと思いますので、声を掛けていただければと思っております。

それでは本日の協議事項は、これまでの経緯、そして、確認ということで、近況遠来の実態について共有させていただきました。

次回の協議会では、近況、私たちの暮らしについての協議を進めていきたいと思います。まず、本日の協議事項はこれで終わりたいと思います。ありがとうございます。

それでは、本日の協議事項については終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

5. 報告事項

特になし

6. その他

全体を通して他に委員から質問等無く、次回の日程を7月27日（水）18時から望来コミセンで開催することです承。

7. 閉会

19時05分に閉会。

○次回の日程について

令和4年7月27日（水）18時00分～ 望来コミセン 多目的ホール

令和4年8月1日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会
会長 渡邊 教円